

(別記様式第4号)

普及活動検討委員会評価結果及び意見等に対する対応方向

実施月日：令和3年3月10日（木）

実施場所：宮城県庁行政庁舎1001会議室

1 委員

所 属	氏 名	所 属	氏 名
宮城大学食産業学群	川島 滋和	HS コンサルティング	本田 茂
宮城県指業士会	公平 伸行	宮城県農業士会	西條 由美恵
宮城県農農業同組合中央会	千葉 康司		

2 検討内容

	検 討 項 目
(1) 令和2年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動の取組について (資料4, 5)	①スマート農業実践による土地利用型経営体のトップモデル育成 ②企業の経営を目指す農業法人の経営体質強化
(2) 令和3年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動の計画について (資料6, 7)	①農業経営の効率化に向けたアグリテックの活用 ②ICTを活用した新たな普及活動の実践

3 委員の評価と県としての対応方向

検討項目	評価値 委員 平均	評価結果 (コメント, 評価表の要約)	県としての対応方向
(1) 令和2年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動の取組について ①「スマート農業実践による土地利用型経営体のトップモデルの育成」 (資料4)	4.4	・個別技術の効果(収量増加や労力削減等)に加えて、経営全体に及ぼす効果(労働力の平準化等)を検証し、定量的に示すことでスマート農業技術普及の意義がより明瞭になる。	・現在取り組んでいる「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」においては、経営全体についても検証しております。 ・引き続き、経営全体の効果を意識し、アグリテックの導入を推進してまいります。
		・「みやぎスマート農業推進ネットワーク」の取組は有効である。農業者同士のネットワーク構築を期待する。	
		・ほ場管理システムによる見える化、労力削減の機械、実証の効果は確実に出ており、今後も必要な分野である。	・ほ場管理システムも含め、引き続きアグリテックの普及拡大に努めてまいります。
		・作業性の向上だけではなく、経営効果についても評価が必要である。	・今後の取組においては、経営評価も意識しながら取り組んでまいります。
		・スマート農業の典型的活用としてドローンの有効活用について様々な利活用を発見してもらいたい。(例えば、山間部での鳥獣害対策活用など) ・導入活用のための若手人材育成も、今後の課題と思われる。	・ドローンの活用については、引き続き中山間地域で取り組んでいる実証事業で取り組んでまいります。 ・実演会等を通じて、周知を図るなどの取組を行ってまいります。

		<ul style="list-style-type: none"> ・モデル法人それぞれに良い成果である。今後は、沿岸部だけでなく中山間地でも今後新たな技術が導入、活用され、良い経営効果が出るよう期待する。 ・「スマート農業の手引き」の作成は良い取組である 	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域については、引き続き「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」に取組、実証に取り組んでまいります。
		<ul style="list-style-type: none"> ・大規模土地利用型法人においては、作業の効率化、新規就農者の教育は課題であり、スマート農業による作業時間の短縮、作業の正確性に効果があることは評価できる。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地等の大区画整備が困難な地域でも活用できるスマート農業普及に期待する。また、併せて過剰投資とならないよう採算性に関する効果も期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域については、引き続き「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」に取組、実証に取り組んでまいります。 ・R3から取り組むアグリテック関係の革新プロジェクト課題において、導入効果の「見える化」に取り組む計画であり、その中で経営効果も検証できるよう取り組んでまいります。
<p>○検討項目（プロジェクト活動（実績））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業革新支援専門員プロジェクト活動② 「企業的経営を目指す農業法人の経営体質強化」（資料5） 	4.6	<ul style="list-style-type: none"> ・技術普及と経営支援は不可分の関係にあり、経営支援に重点を置いた実践的なプロジェクトだと高く評価する。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・仙台東部で企業的経営体の設立、育成に関わる実績もあり、そうしたノウハウを生かした中山間地域等での展開も期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度までの取組成果を、農業法人支援の手引きとして作成し、県内における経営支援に役立ててまいります。
		<ul style="list-style-type: none"> ・第三者継承は今後重要な政策課題になる。引き続き取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営相談所と連携しながら、継承についても引き続き取り組んでまいります。
		<ul style="list-style-type: none"> ・民間と行政が一緒に支援することで、お互いのノウハウを共有できる。今後とも、民間との連携も含めて取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営相談所と連携しながら、引き続き取り組んでまいります。
		<ul style="list-style-type: none"> ・経営課題に終わりは無い。スポット支援だけでは根本的には解決はしないことも多く、支援を受けた側も支援された内容を実践し成長する責任がある。（支援を受けた側に対する意見） 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・経営者育成に向けて会計税務や労務の知識、管理は難しい部分も多々あり、そうした研修会等の開催も望みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営関係の研修会については、各普及センターにおいても引き続き取り組んでまいります。

		<ul style="list-style-type: none"> ・第三者継承対応も、これからの大きな課題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援については農業経営相談所と連携し会計等の専門家を活用しながら、第三者継承も含め支援してまいります。
		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな課題がある中で、支援方向、手法、非常に良い取組である。コロナ渦におけるオンライン会議の支援も、新しい生活様式に沿っている。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・今後も支援する側での役割分担をし、チームで取組、支援をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営支援関係については相談内容により、経営相談所やみやぎ産業振興機構など支援機関と連携しながら引き続き取り組んでまいります。
		<ul style="list-style-type: none"> ・農業法人の抱える課題も、その経営発展段階によって生産技術、経営収支、労務管理等変化していく中で短期的な経営支援に留まらず、専門家を加えての現場での支援は座学よりも有効と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営支援関係については相談内容により、経営相談所やみやぎ産業振興機構など支援機関と連携しながら引き続き取り組んでまいります。
<p>○検討項目（プロジェクト活動（計画））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業革新支援専門員プロジェクト活動① 「農業経営の効率化に向けたアグリテックの活用」 （資料6）（3）令和2年度農業普及活動の取組方針について 		<ul style="list-style-type: none"> ・アグリテックの導入に関しては、過剰投資にならないように、中長期的な視点からの評価が必要。アグリテックの導入を目標にするのではなく、労力削減や人件費抑制等の目標を先に決め、その手段としてのアグリテックの有効性を評価する姿勢が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アグリテックの導入は手段として、経営改善のための支援を心がけた活動を展開してまいります。
		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい技術は、経営体が意欲的に技術を取り入れ、使いこなすことが大事である。この支援を通して、経営体がただの作業からチームで向上していく意識改革と一緒にできるようコーチングの視点も入れて活動してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アグリテックの活用支援については、新たな取組であり、専門家を活用しながら、コーチングも意識した支援が展開できるよう取り組んでまいります。
		<ul style="list-style-type: none"> ・現場では、過剰投資経営体も見られる。各種機器の有効活用のため、研修会等、これからも適切な指導をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アグリテックの導入は手段として、経営改善のための支援を心がけた活動を展開してまいります。
		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい機器・技術がいろいろと出ている中で、それを使いこなす人材育成も重要。経営を継続できる人材育成と合わせて支援をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入したアグリテックが有効に活用されるよう支援を展開してまいります。
		<ul style="list-style-type: none"> ・導入効果を「見える化」するツールの活用により、費用対効果が十分発揮されることを期待する。 	

<p>○検討項目（プロジェクト活動（計画））</p> <p>・農業革新支援専門員プロジェクト活動2</p> <p>「ICTを活用した新たな普及活動の実践」（資料7）</p>	<p>・コロナ禍においてICT技術を用いて農業普及活動を継続しようとする姿勢は、高く評価する。</p>	
	<p>・通常の農業普及活動では、支援できる経営体数は限られるが、ICT技術を導入することで、より幅広い経営体への支援を検討してはどうか。</p>	<p>・現状では活用できる普及指導員が限られていることや、支援を受けられる農業者の実態も不明なことから、本プロジェクトにより、まずは普及指導員のICTリテラシーの向上に取り組んでまいります。</p>
	<p>・農業者は来てくれて当たり前でなく、自らITツールを積極的に使い、お互いがよくなるために工夫しあうことが大事である。ICTについて農業者は、最初は抵抗があってもやってみると慣れるのでは？</p>	
	<p>今回の感染症対策を思えば、大切な活動と思います。移動時間短縮等、効果も期待できますが、あくまでも補完的实施が望ましい。</p>	<p>・現地指導は普及指導員の基本であり、今回の取組により、会議等の移動時間を減少し、十分に現地活動が行えるよう取り組んでまいります。</p>
	<p>・ICTを活用した研修や会議は今後、農業分野に必要な場面が出てくると思われる。農業者がわかりやすく利用できるよう支援をお願いします。・石巻地域のアスパラ栽培におけるZOOMを利用したの講習会、You Tubeを活用した発信などは良い取組事例だと思う。</p>	<p>・農業者に分かりやすい取組となるよう意識して活動してまいります。</p>
	<p>・ICTの活用は必要であるが、活用するプラットフォーム（アプリ等）が統一されていないと混乱が予想される。（普及指導を受ける側でも混乱するのでは）</p>	<p>・プラットフォームの統一は普及だけで行えるものではないことから、情報収集を行いながら取り組める範囲で活動を行ってまいります。</p>
<p>その他、本県の農業普及活動に関する、御意見、御要望等</p>	<p>・農業普及は、「産業政策的」なもの「地域政策的」なものがあるが、バランスよくプロジェクト課題が設定されていると思う。</p>	
	<p>・農業普及の鍵は、農業者同士の連携やネットワークだと思う。そうしたネットワークの構築が農業技術普及の効果の拡大や効率性につながると考える。</p>	<p>・「みやぎスマート農業推進ネットワーク」など農業者も含めたネットワークを構築しながら、活動を展開してまいります。</p>
	<p>・個別の意欲ある経営体に入るプロジェクト課題も大事であるが、産地を形成する支援、JAと一緒に選果場の改善、特定品目の〇億達成など園芸産地を強くするプロジェクト課題も増やしてはどうか。</p>	<p>・各農業改良普及センターにおいて、JA等と連携しながら、産地の園芸産地の拡大に向けたプロジェクト課題を設定しており、産地の育成に取り組んでまいります。</p> <p>・農業振興課としても、革新支援専門員等が各普及センターの取組</p>

			を支援してまいります。
		<ul style="list-style-type: none"> ・農業は、1,000万円以下の小規模生産者も大事にしていく必要があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に策定しました「協同農業普及事業の実施に関する方針」において、先進的な経営体の育成の他、多様な人材の活躍支援にも取り組むこととしております。 ・地域の実情に合わせた取組を支援してまいります。
		<ul style="list-style-type: none"> ・市町村単位の方向性のみではなく、山間、中間、平坦、都市近郊等、県内縦割りの支援も検討を願う。特に中山間地の荒廃は、平坦、都市近郊にも影響がでることから、後継者育成など、これからも手厚い支援で、中山間農業を守っていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した「なりわい」の創出など、中山間地域も含め、農業・農村の維持発展に取り組んでまいります。
		<ul style="list-style-type: none"> ・支援する側の課題が多様な中、少ない人数できめ細やかな支援をされている。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・農業人口が減少する中で、高校生や大学生など若者が農業分野に興味を持つきっかけ作り、種まきも今後必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業大学校や農業高校との連携も意識しながら、普及活動に取り組んでまいります。
		<ul style="list-style-type: none"> ・第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画に基づく、農業・農村振興に向けた普及活動に期待する。 ・中でも、水田園芸の振興・普及に向けて土地利用型の園芸作物選定・栽培技術研究、排水対策の指導等を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸産出額の増大に向けて、水田を活用した露地園芸についても、JA等とも連携しながら取り組んでまいります。